

COOP-JOSO News Letter

2019年12月4回号 発行/常総生協広報G

2019年度活動テーマ「JOSO食材でかんたん・うちごはん」

いよいよ佳境の東海第二原発訴訟!!「証人尋問」傍聴のご案内

2012年提訴から7年、いよいよ差止訴訟も山場を迎え、12月～2月にかけて計5回にわたる「証人尋問」が行われます。5月結審、2020年度内判決の言い渡しの予定です。

「証人尋問」は、原告・被告それぞれの主張が食い違い、争いとなっている点(争点)について双方の専門家に法廷で証言してもらい、どちらが正しいかを裁判官が「証拠調べ」を行うものです。(従って書類は「証拠申出書」という表現になっています。)

下記の日程で「証人尋問」が行われます。裁判官に原告団・住民の決意と意思を示すためにも、ぜひ多くの皆様の参集をお願いする次第です。

日時	(午前)	午後	
	10:00～	13:30～	15:00前後～
2019/12/12(木)	原告側証人 野津厚 (主尋問)	(主尋問)	(反対尋問) (補充尋問)
2019/12/19(木)	被告側証人 川里健 (主尋問・反対尋問)	(反対尋問) (補充尋問)	原告本人尋問① 魚住道郎、矢田部裕子
2020/1/10(金)		原告本人尋問② 相沢清子、花山知宏、大石光伸	
2020/1/31(金)	被告側証人 門谷光人 (主尋問・反対尋問)	(反対尋問) (補充尋問)	※進行協議
2020/2/6(木)	原告側証人 後藤政志 (主尋問)	(主尋問)	(反対尋問) (補充尋問)

※原告・賛同人になっている方は事前に郵送で送られている申込の案内でお申込みください。それ以外の方は常総生協(0297-48-4911)までご連絡ください。

2019年12月の予定

○生協基幹運営/地域活動・催し●	○提携・協同・連帯企画●
○「常総っ子応援団」 毎週木曜日に外遊び活動しています。試食会(親子煮炊き会)は12/19(木)開催です。※年末年始のため12/26、1/2はお休みになります。 12/14(土)ゆるカフェ@月曜コース(常総生協本部) 12/20(金)戸頭店年末セール(戸頭店) 三浦大根収穫体験(木村農園) 12/21(土)歴史を学ぼう～未来のために(常総生協本部)	12/14(土)、15(日)種子法関連イベント(種を守る会) 12/18(水)茨城県適格消費者団体設立準備会 12/19(木)東海第二原発訴訟 口頭弁論期日(証人尋問)
○年末年始の供給スケジュール ※今週は12月4回、5回の2週分を配布しています。次週2週分の提出になります。 ❖ 12月5回(おせち回)→12/28(土)～12/30(月)の3日間で月～金の5日間分を特別供給は注文のある人だけのところに寄る特別供給になります。 ❖ 1月1回(年明けスタート回)は1月6日(月)～の通常供給になります。	

11月22日(金)松永農園産地交流会 開催報告

昨年に引き続き、11月22日(金)に農薬無散布・化学肥料不使用でレモンを手がける「松永農園」さんへ組合員と産地交流会を実施しました。

■雑草だらけ、でもそれが重要！

松永農園さんのハウスを見ると、まず驚くのが雑草の多さ。「ハウスの中でも15～20種類の雑草がいます」と松永さん。でも、この雑草が重要なのです。雑草と言っても、そこに住みつく虫は多種多様です。たとえば、ヤノネカイガラムシというカメムシの一種の害虫がおり、松永さんのレモン園でも見受けられました。一般の多くは強力な農薬をかけて死滅させるところですが、松永さんは放っておきます。すぐにヤドリバチという目に見えないほどの小さいハチがそのカイガラムシに卵を産み付け 孵化し、結果カイガラムシは死滅してしまうのです。また、多様な草木が後に腐葉土となり肥沃土づくりをおこなってくれます。肥沃な土にはたくさんの生命が宿り、循環を繰り返してくれます。こうした「食物連鎖をいかに邪魔しないか」が一番のポイントです。



■今年は草食系の「葉ダニ」が大発生

今年は草食系の「葉ダニ」が大発生しました。本来であれば天敵は肉食系ダニで、草食系の葉ダニを食い尽くしてくれます。しかし、ハウスの中では露地より増えるスピードが遅い為、葉ダニの全盛期が長引いてしまい(葉ダニだけが長い期間生き残ってしまい)結果レモンに影響を与えてしまいました。松永さんが取った対策は、露地の畑や近くの山を歩きハウスに戻る→ハウスの中で体に付着しているであろう肉食系ダニを樹に移動させるというもの。素人では考えつかないようなアイデアで少しでも葉ダニの発生を防いでいました。



常総生協の出荷自体に影響はないものの、気候変動の変化に農園も対応していかなければならないと松永さんも話していました。

■見た目が悪いのは、悪？



←こちらのレモンですが、外皮はダニによってやられてしまったのですが、断面を切ると果肉まで害が行き届いていません。しかしながら一般の流通では「見た目が悪い=正規品として出荷できない」ですが、中身は問題ありません。

「もともとレモンは病害・害虫に比較的強い果実です。今年のように葉ダニが大発生しなければ、この写真のようにレモンの果実自体に影響する事はほとんどありません。もしレモン果樹全体に影響が及ぼす病害・害虫が発生したならば、そもそも防除や殺虫剤は効きません...。つまり、今世界中で流通されているレモンは見た目を重視する為、防除・殺菌剤を使っている以外には無いという事です。」と松永さんは言います。

「見た目が悪い＝食べることができない、料理として使えない」という事は決してないという事です。私たち消費者側も生産者の想いをくみ取り、冷静に選択していく必要があると改めて感じました。

■組合員・生産者との合同交流会でした

今回の松永農園産地交流会は組合員・生産者との合同で開催し、組合員の他、石岡鈴木牧場さん、(株)ニッコーさん、横山ふぁーむさんの3生産者が参加しました。育てている作物は異なるものの、循環型農業の考え方や、B品(正規品として取り扱えないもの)の加工部門も併設している事など学ぶことは多く、双方で有意義な情報共有の場となりました。



■12月4回にて松永さんのレモンを掲載しております。

36 松永さんのレモン400g 税込430円

37 松永さんのレモン1kg 税込890円



～参加された組合員の感想～

■安全で良い商品が購入できる生協に出会えて感謝

朝早くに生協に集合し静岡県にある松永農園へ。あいにくの雨でしたが農園で松永さんの無農薬・無化学肥料の大切に育てられたレモン愛あるお話に今更ながらファンになりました。雑草もある大きさを成長させ刈り込み、その草をマルチがわりにしたり… なるべく自然な環境で循環しているそうです。産地交流会に何人かの生産者さんとお会いして思うことは、1本筋が通っていて正直な仕事をしているからこそとても魅力のある方が多く安全で良い商品が購入できる生協に出会えて感謝です。松永農園のグリーンレモンジャム・レモンカード、レモンの香りが良くオススメです。

(我孫子市：Tさん)

■私たちも生産物を利用することで支えてゆきたい

一日中雨の日の見学会でした。想像していた農園とは少し違った。季節柄実がたわわに実ったレモン畑を想像していたが、ハウスの中は違った。なんだか葉も実も寂しい。ダニの大発生と台風のためかなり実も葉も落としたという。それからの説明がとても面白かった。天敵が現れダニを駆除する時間がかかるが自然の摂理に則り作業を行っているという。生態系を考え農薬を使わなかった。見学した畑は放置農作地だったが8年掛けて理想の農地が出来たそうだ。露地栽培も行っているが天井が開閉するハウス栽培は一年中レモンを収穫する為だ。収穫の真似事も体験した。レモンは木に付けておくところまで実は大きくなるそうで、長さ13cmのものを頂いてきた。新鮮なものは皮が厚く、薄いものは時間が経過したもので長い保存は冷凍も可能だそうだ。加工所は小型作業所ながらジャム、マーマレード、ハーブ塩、乾燥果物など多様な物を作っている。その中で嬉しかったのは「みつろうラップ」だ。初めて見た。19歳、20歳(本人の言葉)で有機農業をすることを決められ現在は奥様、ご長男、ご長女の家族で45種類の柑橘類の栽培と加工品を作っている。



私たちも生産物を利用することで支えてゆきたい。自宅はその面影が濃く残っている。かつては東海道の宿場町だったところに松永家がある。松永家の歴史も興味がわく。

同行された鈴木牧場の鈴木さんともお話が出来、大変有意義な一日だった。往復雨の中一人で運転された小宮山さんに御礼申し上げます。交流会を企画された生協に感謝致します。ありがとうございました。

(我孫子市：Sさん)

■常総生協の組合員で良かった！…と思った一日でした

果樹を出荷する場合、農薬を使わずに生産することは非常に難しいと聞いていたので、完全無農薬・化学肥料不使用でレモンを育てている生産者がいると知り、ぜひ交流会に参加したいと思いました。片道4時間かかる為、朝6時に出発はかなり厳しいですが、とても充実した一日でした。レモンの圃場を今まで見たことがなく、多分他の柑橘類と同じように日当たりの良い斜面に植えられているのだろうと勝手に想像していました。ところが、実際に見てビックリ。山の中腹まで整地されていたところに、大人の背丈ほどのレモンの樹が植えられた畑が広がっており、その奥に今まで見たことのない高いハウスが並んでいました。その中には外の2倍くらいの高さのレモンの樹が植えられていました。まず“ハウス栽培のレモン”に驚きです。



露地栽培ではレモンの収穫は一年に一回ですが、ハウスでは順調にいけば年に3回花を付けるので、ほぼ一年中収穫ができるそうです。今外にあるレモンもゆくゆくはハウスを建て直して、ハウス栽培にしていきたいとの事でした。また収穫することが剪定や摘果につながる為、他の果実よりも手間がかからないそうです。そして、特別に施肥、除草することもしません。確かに地面には今でも様々な雑草が育っていて（15～20種類ほど）そこに多種多様な生き物が住んでいる。夏の間、草の丈が伸びてくると草刈りをするが、それも一定の高さにして、そこに生きる虫などの住む環境を壊さないようにしている。刈り取った草や枯草、切り落としたレモンの枝はそのままして、やがて土にかえり堆肥となっていくため、施肥は必要ないとの事。今年の2月に葉ダニが大量発生してかなり樹がダメージを受けたため、一番果のレモンは少なくなってしまった。草食系の葉ダニの天敵は、肉食系のダニであり、葉ダニが大量発生するとそれを食料とするダニもどこからともなく増えてきて葉ダニを食べてくれる。ただ、ハウスの中では露地より増えるスピードが遅い為、葉ダニの全盛期が長引いてしまった。目に見えるほどの大きな生物ではないので、探してつぶすわけにもいかず、その場合はできるだけ露地の畑の中を歩き回り、その後ハウスに入って、体にくっついてきたであろうダニをハウスの樹に移動させるんですよ、と話す松永さんはとてもにこやか。今までの経験で培ってきたものが、多少？いえ、かなりの害虫にも動じない強さにつながっていると感じました。また、肉食系のダニがレモンの害になる事は？という質問に、エサとなるダニがいなくなると、自然に天敵のダニも減っていくので、害になる事はない。今このハウスの中は、両者のバランスが取れている状態だと思いますよ、という事でした。ハウスの設備も、工事用の鉄パイプを使った頑丈な作りとなっていて屋根の高い為、ソーラー発電を利用して屋根の開閉をおこなっている。また、雨水も大切な資源であり、雨が降ると自然に雨どいを伝ってハウス内に入る仕組みなど、本当にいろいろな工夫されていて、見どころ、聴きどころいっぱい松永農園でした。

それから、出荷できない柑橘類（レモン以外でも十種類以上）を加工してジャムを作り販売するなど、無農薬で栽培された貴重な果実を無駄にすることなく、ほぼ100%使い切っていることも感心しました。ハチミツまで自家採取で、その蜜を使ってハンドクリームやラップを作って日々の生活に役立てている。松永さん一家は自分たちで作りだす生活を本当に楽しんでいることがよく分かりました。貴重な一日を費やいただき、レモンの収穫体験やホットはちみつレモンの試飲など、本当に充実した一日でした。参加させていただき、本当にありがとうございました。（常総生協の組合員で良かった！…と思った一日でした!(^^)!

(牛久市：Hさん)